

ご長寿おめでとうございます

川本タツエさんが満100歳に

10月17日に満100歳の誕生日を迎えた川本タツエさん(佐野)のもとを松田町長が訪れ、長寿祝い金を贈呈しました。贈呈時、部屋からシルバーカーを押しながら歩く元気な姿を見せてくださいました。

川本さんは、高梨村払田に6人きょうだいの末子として生まれ、21歳で結婚、子ども3人、孫5人、ひ孫5人に恵まれました。長寿の秘訣は、食事をとるときは好き嫌いをせず自分のペースでゆっくり時間をかけて食べることと、毎日30分正座をしながら、仏壇に手を合わせることだそうです。これからもお身体を大切に、元気でお過ごしください。



高橋アキさんが満100歳に

10月20日に満100歳の誕生日を迎えた高橋アキさん(御前)のもとを松田町長が訪れ、長寿祝い金を贈呈しました。贈呈時、施設の職員の方から花束と寄せ書きを受け取りとても喜ばれていました。

高橋さんは、旧大正寺村に生まれ、20代で結婚、子ども3人、孫4人、ひ孫2人に恵まれました。息子さんの話によると、優しく頑張り屋のお母さんで料理が得意だったそうです。現在は、施設に入所されており、ご自身の居室でゆっくりと体を休めて過ごし、食事の際は食堂で職員の方と会話を楽しんでいるそうです。長寿の秘訣は、血圧などの体調管理と定期的な通院、少しの変化でも受診をすることだそうです。これからもお身体を大切に、元気でお過ごしください。



非日常な体験を通して

小学校4年生による宿泊体験活動

町内各小学校の4年生による宿泊体験活動が7月から9月にかけて行われ、1泊2日の日程で美郷町宿泊交流館ワクアスに宿泊しました。この活動では、児童自らが宿泊の準備をしたほか、グループに分かれてさまざまな課題に取り組む「グループワーク」、普段の学校生活では体験できない「星空観察教室」、与えられた問題を解くために歴史民俗資料館を調べ回る「トレジャーハンティング」も行われました。

互いに協力し合い、さまざまな活動に取り組んだ児童は、仲間との絆を深めました。



末永くお幸せに 金婚をむかえる ご夫婦へ記念品を贈呈

昭和50年に結婚し、今年で結婚50周年となる町へ事前に申込みのあつたご夫婦27組の自宅で、お祝い品を贈呈しました。松田町長から「記念品には、50年前の入籍日の新聞(記念日新聞)も入っています。お二人で来し方を語り合ってください。」と、手渡されると、皆さんは笑顔で感慨深そうに受け取っていました。

「いい記念になった。ますます長生きしたい!」と、お話される方もいました。これからもご夫婦で元気にお過ごしください。

MISATOPICS
町の話題



いつまでも健康でいるために

ぐっと楽10周年記念行事・JAL連携健康づくり講演会

今年度で10周年の節目を迎える「ぐっと楽健康教室」の記念行事が11月13日に美郷町総合体育館リリオスで行われました。第一部では「ぐっと楽健康教室」に10年間継続して参加した方々の表彰を行い、これまで講師を務めた黒田恵美子先生は「運動は楽しい！身体は変えられる！そんな教室をこれからも皆さんと一緒につけていきたいです」とあいさつしました。第二部ではJALウエルネス推進部の方々による健康づくり講演会が行われ、参加者は実際に体を動かしながら、運動の大切さを再認識することができた様子でした。

「ぐっと楽健康教室」の10周年の節目にパンフレットを作成しました。ご自宅でも健康づくりに取り組める内容になっていますので、ぜひご覧ください。パンフレットは令和8年1月に全戸へ配布予定です▶



▲美郷フェスタ農産展表彰式であいさつをする松田町長

一方、ぐっと時間を遡って思い出されるのが小学生の頃。おやつ代わりに食べた味噌おにぎり。これらも私にとっては「ごはんがうまい」と思った記憶の一つとなっています。

「あく、ごはんがうまい」と思つたこと、みなさんはどれくらいありますか。ちなみに、ここで言うごはんとは「お米」のことです。ほぼ毎日たべているので、意外とそうした記憶を思い出すのに時間が必要かも知れませんが、誰しもが必ずあるはずです。

私の場合、ごく最近の記憶では10月に食べた新米サキホコレ。これは感動的にうまかった。あまりにおいしくて、おかげなしに茶碗一杯を平らげました。また、そのちょっと後の、道の駅美郷の食堂「みさとのごはん」で食べた釜炊きご飯。これもうまかった。さすが、お米を意識した食堂です。

こうした、「ごはんに関する記憶があるのは、やはりお米をほぼ毎日食べているからだろうと思いません。だからこそ少しの変化に意識が回り、うまいまずいという認識に繋がるとともに、記憶として残るのだろうと思います。さらに深い部分では、食べる行為の重要性を私たちには無意識に理解していく、だからこそお腹を満たす象徴の主食に特別な意識が働くということなのかも知れません。

いずれ、主食のお米を意識することはとても大切なことと思うところです。

町では、こうしたお米に対する認識を踏まえ、子供たちの給食に入れていく

COLUMN
WINDS

コラム
風

お米への想い

美郷町長 松田知己

ます。子供たちにお米を意識してもらうとともに、給食をきちんと食べもらうために、小中学校では胚芽も含み栄養価の高い「金芽米」あきたこまちを提供することとし、先月から実施しています。実は昨年度試験的には提供したところ、給食全体の食べ残しが減りました。これはとても重要な結果です。きちんと必要な栄養を摂らせるという学校給食の目的に沿うからです。また、認定こども園では、以前から特別栽培米のあきたこまちを提供しています。だからこそ少しの変化に意識が回り、うまいまずいという認識に繋がるとともに、記憶として残るのだろうと思います。さらに深い部分では、食べる行為の重要性を私たちには無意識に理解していく、だからこそお腹を満たす象徴の主食に特別な意識が働くということなのかも知れません。

子供たちには、給食を含めてお米に何らかの意識が芽生えることを期待したいと思います。お米への想いです。また、給食を通じた友達との会話や風景なども記憶し、それが意味ある記憶として自身の成長や町への想いに繋がることも、心から期待したいと思います。